

昭和初期から30年代の生活



昭和20年代勝浦小講堂の前



昭和24年頃神明神社前での七五三の記念写真



昭和30年代の勝浦幼稚園

この頃の先生は下駄の先生もいる。当時は子どもが多く、勝浦小中学校の児童生徒数は、1000人を越え、街には子どもがあふれていた



昭和26年に勝浦に大雪が降った



勝浦の大火災後の稚児行列



出兵する兵士を囲んで写真撮影

昔の冬は今より寒く、大雪が降り、厚い氷もよくはった。昭和26年11月におきた大火災は町役場など65戸を全焼した。



昔の結婚式は自宅でもあげた



出産後実家の前で



遠見岬神社に初詣



自宅で初節句のお祝い



農家の縁側は団らんの場



耕耘機のかわりだった牛



自転車に乗った親子



縁側で子どものセーターを編む



薬局の前で



石井時計店の前で



メガネ店の前で



勝浦小の校舎前で

昔は今より生活は豊ではなかった。ほとんどの家には、テレビなどの電気製品や自動車はなかった。肉も高値で食べられなかった。しかし、心は豊かで懐かしい思い出、楽しい思い出ばかりである。本当の豊かさは心の豊かさで昔の方が幸せだったのかもしれない。

(写真提供:小林写真館 中村広光 中村近子 編集・文責:

中村裕明)